



学術研究船「白鳳丸」

学術研究船「白鳳丸」は、2004年の海洋研究開発機構の発足にともない、「淡青丸」とともに東京大学海洋研究所（現東京大学大気海洋研究所）から移管された大型研究船です。日本の近海はもちろん、太平洋、インド洋、地中海、極海など世界中の海におもむき、調査研究を行っています。振動をおさえたエンジンや、雑音の少ないスクリューなど、船体のいたるところで高度な海洋観測をおこなうための工夫がなされています。



世界中の海でさまざまな研究を実施

船内にはマルチナロービーム音響測深機、CTD解析処理装置、生物資源音響探査装置、地層探査装置、船上重力計、音響測位システムなど、数多くの高性能研究設備が備えられているほか、6種類の観測ウインチが常設されており、世界中の海でさまざまな分野の海洋調査・研究を実施しています。

世界の海を舞台に研究航海



CTD付採水器による採水作業



IKMTネットによるプランクトンの採取



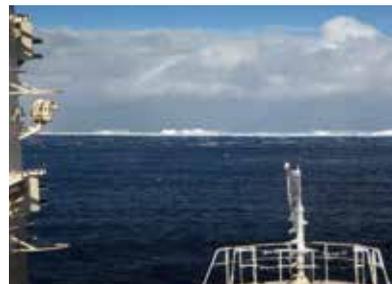
大量採水器による採水作業



湧昇流実験ブイの投入作業



ピストンコアラーによる海底堆積物の採取



南極海を航行する「白鳳丸」



JAMSTEC 国立研究開発法人
海洋研究開発機構
Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology

